教育実習生を育てる先生方のための

実習指導
サポートガイド

実習生が、
教師という仕事の魅力を実感できる教育実習を実現するために

【目次】

1　学校全体で、**これからの実習指導**の在り方を考えてみましょう……Ｐ１
2　実習生が**主体的で個別最適・協働的に学ぶ実習**を目指しましょう……Ｐ３
3　**「実践力の向上」と「教職志望の高まり」の両立**を目指しましょう……Ｐ６

北海道教育委員会

1　学校全体で、これからの実習指導の在り方を考えてみましょう

教育実習は、これまで、**学校の親身で丁寧なご指導**に支えられ、実習生が、学校現場ならではの**豊かで質の高い学び**を通して、実践力や教員を目指す気持ちを高めてきました。

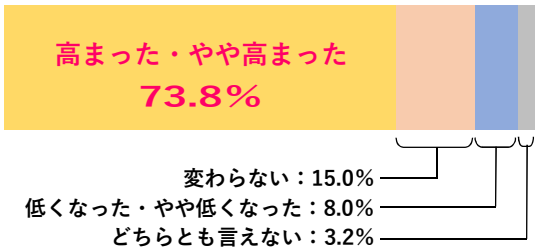
一方で、現在は、「**教員の確保**」「**新たな教師の学びの姿の実現**」「**学校における働き方改革の推進**」など、学校教育を取り巻く環境が大きく変化するとともに、教育実習に関わる国の検討では、大学の教職課程の**学校体験活動の活用**や学生の状況に応じた**柔軟な実習の履修形式**などについて議論が進められており、これらのことを踏まえて、現場の実習指導も、これまでのよさを活かしつつ、**これからの在り方を考える時期**にさしかかっています。

1　教育実習による教職志望の高まり

・実習を経験した大学生へのアンケートには、
「実践でしか分からないやりがいがあった」
「子どもと共に成長する教師に魅力を感じた」
「大学で学ぶ意義と今後の目標を見出せた」
などの声が寄せられています。

・これらの声からも、教育実習は、現場の**先生方のあたたかいご指導とご支援**により、多くの学生にとって、教員志望を高める**貴重な学び**の機会となっていることが分かります。

令和４年度　北海道教育大学の学生アンケート
【教育実習後の教職志望の高まり】

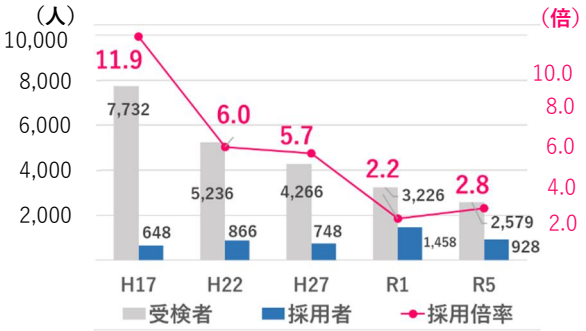


2　本道の教員採用の現状

・本道では、近年、退職者増に伴い採用必要数が増加する一方、教員採用選考検査の受検者が減少傾向にあり、令和５年度には採用倍率が2.8倍にまで低下しています。

・経験の浅い教員が増える、教員数そのものが不足する中、教育実習には、**実習生の教職を志望する気持ちを高め、本道教育の担い手を確実に増やしていく役割も**、一層大切になります。

【教員採用選考　受検者の減少傾向（道）】



3　養成段階からの「新たな教師の学びの姿の実現」

・「令和の日本型学校教育」においては、「新たな教師の学びの姿」として、**教員や養成段階の大学生にも「主体的で個別最適・協働的な学び」**を通じて、資質能力を高めていくことが求められています。

・教員の養成段階で、特に重視したい学びは、学び手が理論的な知識を基に、**自らを振り返り、自分と向き合い、目標をもって次の学びにつなげる「理論と実践の往還」**です。

・将来の教育の担い手を着実に育成していくためには、大学・学校・教育行政など、養成段階に関わる全ての関係者が、これらのことについて十分に理解した上で、大学生を導くことが大切になります。

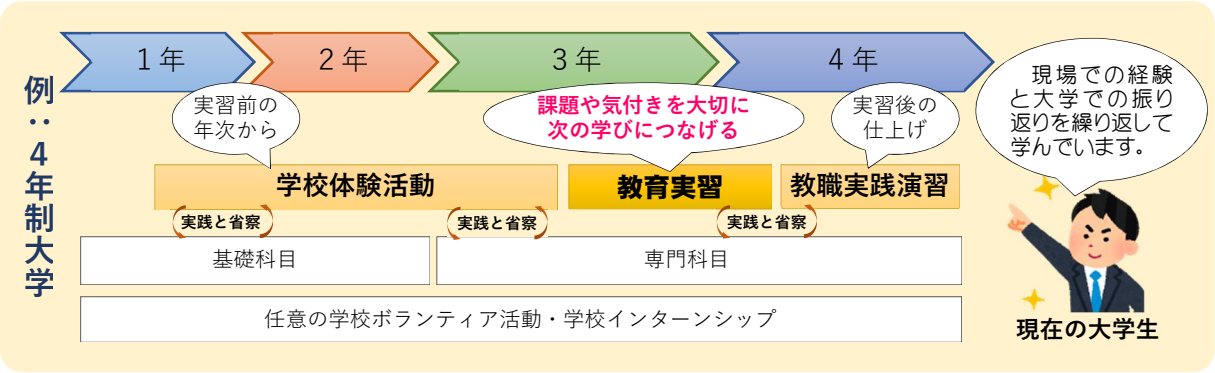
4　学校における働き方改革

・現在、学校では、教育課題が多様化する中でも、質の高い教育活動を行うため、これまでの働き方を見直し、子どもたちと向き合う時間を確保するなど、働き方改革の取組が進められています。

・子どもたちのために、先生方ご自身が生き生きと過ごすという観点からも、勤務時間を超えて、実習生を支えていただくこともあった**実習指導も、働き方改革の一環として、負担軽減**を図っていただきたいと考えています。

5　大学の教職課程全体を通じた「理論と実践の往還」

・**以前は、大学の授業が座学中心**で、大学生は、授業実践を中心に多様な教員業務を経験する**教育実習を通じて、教員になるための学びの総仕上げ**を行ってきました。
・現在、大学では、「実習前から学校体験活動を取り入れる」「実習経験を基に、更に学びを深める『教職実践演習』を位置付ける」など、**教職課程全体を通じて、「理論と実践の往還」**を重視した学びを取り入れています。
・これからの**教育実習は、大学の教職課程全体の「理論と実践の往還」の一部**と捉え、「**実習生自身が課題や気付きを得て、教員志望を高め、次の学びにつなげる**」という役割を担うことが大切です。



6　これからの教育実習

・大学の教職課程は、全体を通じて「理論と実践の往還」が重視されてきていますが、教育実習の実施年次は、**教員養成大学では３年次後期、一般の大学では４年次前期、短期大学では２年次**が一般的で、実習生により実習開始時の既習事項は異なります。
・また、教員志望の程度やボランティア等の学校体験の有無など、**意向や経験も様々**です。
・このように、**多様な実習生が「理論と実践の往還」を実現**することが求められる、これからの教育実習では、全ての実習生が一律の内容で取り組むのではなく、

①実習生自身の目標や課題を踏まえたプログラムを通して学ぶ

②強みや弱み、教職の向き不向きを捉え、自分自身と向き合う

③実践と省察を通して成長を実感し、教員を目指す意欲を高める

という過程を通じて、実習生が主体的・個別最適・協働的に学ぶことが大切です。

主体的に
自らの目標や課題をもって

・「**北海道における教員育成指標**」には、養成段階の「**キーとなる資質能力**」「**期待される具体の姿**」が示されています。
・この指標を基に、**実習生が目指す姿を明確に**することで、目標に向かって主体的に取り組むことができます。

個別最適に
一人一人の強みや弱みなどに応じて

・例えば、「**筋道を立てて指導案を考えることができる実習生**」「**子どもとの関わりが得意な実習生**」「**それらを初めて経験する実習生**」がいます。
・それらの実態に基づき、実習生と指導教員が、「**教員を目指す気持ち**」**が高まる実習内容を共に考える**ことが大切です。

協働的に
子どもたちや先生方との関わりを大切に

・**子どもとの交流**や**現場の先生からの直接のフィードバック**は、大学にはない実習ならではの学びです。
・実習中は、控え室で授業づくりなどに打ち込む学びに加えて、**多くの子どもたちや先生との関わりから得られる学びを大切に**しましょう。

2 実習生が主体的で個別最適・協働的に学ぶ実習を目指しましょう

実習生が実習中に実施しなければならない**授業時数に、法律の定めはありません**。前年度までのスケジュールを**慣例的に踏襲するのではなく**、その年度の学校の事情や実習生の既習事項、経験等を踏まえ、**最適な授業時数や実習生自身が自分に必要な学びを考えて活用できる時間を設定**することが大切です。例１～３を参考に、実習生の実情等に応じて、主体的で個別最適・協働的な教育実習に向けた工夫に取り組んでみてください。

例１ 「憧れ」から具体的な将来像を見つけたいＡさん

まとめの研究授業に向けて、段階的に授業実践に挑戦するスケジュール

◆教員志望：「恩師への憧れ」など、素朴に教職を志望している一方、教員の仕事を具体的に理解しているわけではない。

◆学校体験：中・高での学校体験はないが、大学では科目以外に積極的に学校ボランティアに参加している。

◆心　　境：実習に前向きだが、「指導に応えられるか」「長時間の実習に耐えられるか」不安を感じている。

【教室】・・・実践や参観　【教室】・・・子どもとの交流　【控室】・・・個人の作業や検討　【教室】・・・まとめの授業

実習生裁量の時間・・・自分に必要な学びを考えて活用する時間（実践、参観、作業、個人思考など）

実習期間				時限 1	2	3	4	給食清掃	5	6	放課後
1週	1週	1週	実習序盤の例	【教室】担当学級の参観	【教室】他学級他学年の参観	【教室】Ｔ２体験個別支援	実習生裁量の時間	【教室】子どもとの関わり	【控室】実習の目標の検討	実習生裁量の時間	・目標に関する指導教員との対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・複数の教員の実践を参観 ・個性が活かされる教職の魅力を学ぶ				・指導教員との対話を通して、実習生が目標を自己決定		・時間内に所定の学びを終える時間の確保	
2週	2週		実習中盤の例①	【教室】担当学級の参観	実習生裁量の時間	【教室】中心的に学ぶ教科の実践	【控室】実践の振り返り	【教室】子どもとの関わり	【控室】翌日の実践の準備	実習生裁量の時間	・指導教員からの助言や対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・教科書の指導書や指導教員の略案などを活用 ・「慣れる」段階から始める ・授業実践の前は、準備の時間を十分に確保					・当初の実践は、「１日１回」「２日に１回」など回数を絞る ・準備と振り返りの時間を確保		
3週		2週	実習中盤の例②	【控室】まとめの研究授業の準備	【教室】中心的に学ぶ教科の実践	【控室】実践の振り返り	【教室】担当学級の参観	【教室】子どもとの関わり	【教室】多様な教科の実践	実習生裁量の時間	・指導教員からの助言や対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・研究授業を行う場合、実習時間内に準備の時間を確保 ・授業のレベルは、時間内で計画できるものに				・実践の準備が多くなる時期でも、子どもと関わる時間を確保 ・控え室などにこもることがないよう配慮			
4週	3週		実習終盤の例	【控室】まとめの研究授業の準備	【教室】まとめの研究授業	【控室】実践の振り返り	実習生裁量の時間	【教室】子どもとの関わり	【控室】実習後の目標の検討	実習生裁量の時間	・指導教員との対話 ・振り返り ・日誌の記入
				特設授業は、普段どおりのレベルでの研究授業 ・校内の教員に、実習生のよさや努力を伝え、参観の働きかけ ・研究授業後、多くの教員からの励ましや助言					・実習生の振り返りや教員との対話を通じて、実習での課題や気付きを大学での学びにつなげる		

例２　学校体験が少なく、子どもたちや先生方との関わりに不安を抱くＢさん

Ｔ２体験や個別支援から始め、成功体験を積み重ねるスケジュール

毎日、先生方や子どもたちと、うまくコミュニケーションがとれるかな。

◆教員志望：教職を将来の選択肢の一つとして大学に進学し、教員免許を取得できる課程で学んでいる。大学科目を通じて、少しずつ教職への関心を高めている。

◆学校体験：大学の科目以外に、中・高を含めて学校体験はない。

◆心　　境：実習内容はもとより、子どもたちと対話したり、現場の教員から指導を受けたりすることに不安を感じている。

実習期間				時限 1	時限 2	時限 3	時限 4	給食清掃	時限 5	時限 6	放課後
1週	1週	1週	実習序盤の例	【教室】担当学級の参観 **図工美術体育等**	【教室】担当学級の参観 **特活など**	**実習生裁量の時間**	【教室】担当学級の参観 **総合探究等**	【教室】子どもとの関わり	【控室】実習生同士の振り返り	【控室】実習の目標の検討	・目標に関する教員との対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・子どもの活動の多い授業を参観 ・個別支援やグループ活動への参加を通して、子どもとの関係づくり					・実習生が複数いる場合は、互いの不安や苦労を共感し、励まし合う機会を設定	・指導教員との対話を通して、実習生が目標を自己決定	
2週	2週		実習中盤の例①	【控室】次時の子どもとの関わりの準備	【教室】Ｔ２体験 個別支援	【控室】次時の子どもとの関わりの準備	【教室】Ｔ１体験	【教室】子どもとの関わり	【控室】翌日の実践の準備	**実習生裁量の時間**	・指導教員との対話 ・若手教員との座談会 ・振り返り ・日誌の記入
				・事前に、中心的に関わる子どもや関わり方について準備		・当初は、授業の一場面に絞る ・「計画どおり進行できた」という手応えが得られるように			・不安や課題を一人で抱え込まない ・翌日の目標や見通しをもって一日を終える		
3週		2週	実習中盤の例②	【控室】次時の授業実践の準備	【教室】中心的に学ぶ教科の実践	**実習生裁量の時間**	【控室】次時の授業実践の準備	【教室】子どもとの関わり	【教室】多様な教科の実践	**実習生裁量の時間**	・教員からの助言や対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・現場の実習でしか学ぶことができない実践力の向上を優先 ・教科書の指導書や指導教員の略案などを活用 ・授業実践の前は、予行演習などの準備の時間を十分に確保				・実践の準備が多くなる時期でも、子どもや教員と関わる時間を確保 ・実習生が控え室などにこもることがないよう配慮			
4週	3週		実習終盤の例	【控室】まとめの授業の準備	【教室】**まとめの授業**	【控室】実践の振り返り	**実習生裁量の時間**	【教室】子どもとの関わり	【控室】実習後の目標の検討	**実習生裁量の時間**	・指導教員との対話 ・若手教員との座談会 ・振り返り ・日誌の記入
				特設授業ではなく、指導教員の参観による日常の授業 ・まとめの授業は、これまでの取組を活かすことができる普段どおりの授業 ・指導教員など、日常的に関わりのある教員が参観 ・実習生が過度に緊張することなく実践できるよう配慮					・実習での課題や気付きを大学での学びにつなげる ・実習全体を通じた努力や成長を価値付け、達成感をもたせる		

例３　「先生になる」という夢に向かって、やる気のみなぎるＣさん
目標に向かって、自分で必要な学びを考えながら実習を進めるスケジュール

私も、先輩が話していた実習の達成感を味わってみたいな。

◆教員志望：将来は教職に就くという確固たる意思がある。
◆学校体験：中学校・高校時代に、学校現場で職場体験やインターンシップを経験し、大学でも科目以外に、学校でのボランティア活動を積極的に行うなど、学校体験が豊富。
◆心　　境：教育実習では、自身が構想した研究授業に挑戦し、現場の先生からアドバイスをもらいたいと思っている。

実習期間				時限 1	2	3	4	給食清掃	5	6	放課後
1週	1週	1週	実習序盤の例	【教室】担当学級の参観	【教室】Ｔ２体験 個別支援	**実習生裁量の時間**	【教室】Ｔ１体験	【教室】子どもとの関わり	**実習生裁量の時間**	【控室】実習の目標の検討	・目標に関する教員との対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・実習生の意向に応じて、１週目からＴ２やＴ１を体験し、単独で授業を進める準備					・指導教員との対話を通して、実習生が目標を自己決定 ・まとめの研究授業に向けて、中心的に授業を実践する教科を検討		
2週	2週		実習中盤の例①	**実習生裁量の時間**	【控室】次時の実習の準備	【教室】中心的に学ぶ教科の実践	【控室】実践の振り返り	【教室】子どもとの関わり	【控室】翌日の実践の準備	**実習生裁量の時間**	・指導教員との対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・当初は、教科書の指導書や指導教員の略案などを活用 ・「慣れる」段階から始める ・授業実践前の準備、実践後の振り返りの時間を十分に確保					・実習生の意向に応じて、自分の力で指導計画の立案に挑戦 ・実習生が考える時間と指導教員から助言を受ける時間をバランスよく設定 ・一人で抱え込むことがないように配慮		
3週		2週	実習中盤の例②	【控室】まとめの研究授業の準備	【教室】中心的に学ぶ教科の実践	【控室】次時の授業実践の準備	**実習生裁量の時間**	【教室】子どもとの関わり	【教室】多様な教科の実践	**実習生裁量の時間**	・教員からの助言や対話 ・振り返り ・日誌の記入
				・「まとめの研究授業」に向けて、早い段階から準備の時間を確保 ・中心的に実習する授業実践は、「まとめの研究授業」とつながりをもたせ、単元や題材のまとまりを意識			・実習の後半も、実習生裁量の時間を確保 ・「実践を繰り返す」「指導教員の授業を見て学ぶ」「指導計画を考える」など、自分の課題意識に応じて、主体的に学ぶ				
4週	3週		実習終盤の例	【控室】まとめの研究授業の準備	【教室】まとめの研究授業	【控室】実践の振り返り	**実習生裁量の時間**	【教室】子どもとの関わり	【控室】実習後の目標の検討	**実習生裁量の時間**	・指導教員との対話 ・振り返り ・日誌の記入
				特設授業は、より発展的なレベルで研究授業 ・校内の教員に、実習生のよさや努力、伸びしろなどを伝え、参観を働きかけ ・研究授業後は、参観した教員から、今後の目標や改善点について具体的に助言					・実習生の振り返りや教員との対話を通して、実習での課題や気付きを大学での学びにつなげる		

3 「実践力の向上」と「教職志望の高まり」の両立を目指しましょう

現在、大学の教職課程には、早期からの学校体験や教育実習後の教職実践演習が位置付けられ、教育実習は**大学での学びの一部**です。

これからの学校教育を担う人材を育てるため、教育実習では、実習生の**「実践力の向上」と「教職志望の高まり」の両立**を目指しましょう。

【視点１】実習生が「実際にやってみる」を重視してください

・教育実習での授業実践には、「指導計画を立案する」と「計画を踏まえ実際に授業を行う」という２つの学びがあり、実習生の既習内容や経験等に応じて、２つの学びをバランスよく、又は軽重を付けて経験する必要があります。

・特に、「子どもに授業をする」ことは教育実習ならではの学びであることを踏まえて、実習生の状況によっては、毎回、学習指導案を一から作成するのでなく、「既存の指導案」「教科書の指導書」「事前に大学で作成した指導案」などを活用して、「実際にやってみる」を重視することも考えられます。

学習指導案・略案のフォーマットを使用すると、体裁を整える負担が軽減します

【視点２】実習日誌は「実習生の言葉や振り返り」を大切にしてください

・実習日誌は、実習生が一日を振り返って、成長を実感したり、翌日の目標を見いだしたりするために記入するもので、記入すること自体が目的ではありません。

・実習日誌の取組を通して、内容や体裁についての添削の繰り返しは控え、実習生が自身の言葉で、自分と向き合う営みを大切にしてください。

・働き方改革の観点から、教員欄の記入も、毎日ではなく実習生の数日の様子を捉えてまとめて記入することもできます。

・また、実習日誌の電子化は、実習生と指導教員の負担軽減につながります。

・大学が手書きの日誌を使用している場合は、「道教委のフォーマットを使用する」「大学の様式で電子データの提供を依頼する」などの対応が考えられます。

電子化で、日誌の持ち帰りを解消しましょう

【視点３】各学校で「実習指導のニューノーマル」をつくり、共有してください

・教育実習は、将来、学校教育の担い手となる人材を育て、よりよい学校教育につなげていくためのものですので、実習によって、学校の先生方が疲弊してしまったり、教職を目指す大学生の意欲が下がってしまったりすることは、お互いに本意ではありません。

・先生方には、これまで、最大限の実習指導をしていただいていますので、これからは、「勤務時間内にできる範囲で」を基本にして、これまでどおり、あたたかく実習生を支えてください。

・「始業時刻に合わせて来校」「日誌の記入を含めて時間内」「まとめの授業は時間内でできるレベルに」など、「実習指導のニューノーマル」を学校全体で共有し、先生方も実習生もWin Winな教育実習を実現してください。

働き方改革の観点からも、担当の先生だけではなく、学校全体で、「実習指導のニューノーマル」に向けた工夫を話し合ってみてください。

【これからの実習指導】　アイディアリスト

道教委では、このサポートガイドの作成に当たり、道内の教員養成大学の学生や、実際に教育実習を受け入れている学校の管理職、実習担当の先生方に、これからの実習指導の在り方について、ご意見を伺い、アイディアリストを作成しました。このリストを参考に、学校の実情に応じて、実習生も先生方も達成感や成就感が得られる教育実習となるよう、取り組んでみてください。

時期・段階	実習生の学び	これからの実習指導に向けたアイディア
実習前	大学での学び	■大学で、実習で取り扱う単元等の指導略案を準備する
	事前打合せ	■受入校が、実習生の「教員志望の程度」「学校体験の有無」等を把握した上で、「教員育成指標」を参考に、大学生と共に目標を考える ■目標を見据えて、「研究授業の有無」など、実習内容を精選する
教育実習	管理職等の講義	■講義等は実習前の打合せで実施し、実践の時間を確保する ■教員の社会的な信用、給与、福利厚生等など、公務員の中でも優遇されている身分や処遇面での魅力についても啓発する ■講義等は NITs 動画で事前学習し、実習では対話的に学ぶ
	毎日の実習	■学校体験の多い実習生は、多くの実践を繰り返しながら学ぶ ■学校体験の少ない実習生は、授業参観やＴ２から段階的に学ぶ ■実習生の実態に応じて、一から指導案を作らず、既存の指導案などを活用して「慣れる」段階から経験する ■計画した授業時数の消化に過度にこだわらず、実態に応じて、スケジュールを見直したり、子どもたちと触れ合う時間を確保したりする ■初任段階教員と学び合ったり、語り合ったりする機会を設ける ■実習期間の中でも、実習生とスケジュールについて話し合い、実態に基づいた再調整を柔軟に行う ■大学が設定する授業時数が、実習生の状況等により達成できないと見込まれる際は、大学と相談し、本人に適した授業時数を設定する
	実習日誌	■実習生の振り返り、自分自身と向き合うことを重視し、文章の体裁を整える過度な添削を行わない
	まとめの研究授業	■「まとめの研究授業」は実習生の目標等に応じて実施する（しない）。 **【まとめの研究授業のメリット】** ◆実習生が達成感を感じることができる ◆実習生が実習の集大成として、実習の成果を試すことができる ◆多くの教員に参観してもらい、励ましやアドバイスを受けられる **【まとめの研究授業のデメリット】** ◆準備の段階で、大きな負担感がある ◆準備が長時間になり、帰宅が遅くなることがある ◆不本意な授業になった場合、自信を喪失してしまうことがある **〔当初から実践力や意欲のある実習生〕** →より発展的な研究授業（参観あり） **〔徐々に実践力や意欲が高まった実習生〕** →普段通りのレベルで研究授業（参観あり） **〔試行錯誤を繰り返してきた実習生〕** →研究授業は設けず、指導教員の参観による日常の授業でまとめ
	実習後の反省	■実習を活かして、大学で学びを深めたいことを考える機会を設ける ■教員は、実習生に継続的な学びを促す視点で励ましや助言を行う